



【箕山クリニック : Doctor】

閉鎖筋の肉離れはMRI (magnetic resonance imaging = 核磁気共鳴画像法) によって確定診断されるようになった部位の肉離れです。

MRI 検査はとても高価なため、金銭的な面を考慮すると、学生に頻繁に行うわけにはなかなかいきません、可能な限り問診と身体所見だけで診断をつけるようにしていますが、身体所見を取っても、ストレッチ痛があっても抵抗下痛はないなど、内転筋？ハムストリング？腸腰筋？と非常に分かりにくく、どの筋とも一致しません。

数年前に大学のサッカー選手が、「ボールを取りに行き、脚を伸ばしたときに痛くなった」と来院し、どの筋か確定できませんでしたが、今思えば、閉鎖筋肉離れだったかもしれません。2~3年前に論文で知り、今では受傷機序と身体所見（股関節屈曲位での内旋痛や外旋抵抗下痛など）から見逃さないようにしていますが、単径部に疼痛を出すその他様々な疾患と鑑別しなければならない外傷です。

写真は、問診と身体所見から大腿骨疲労骨折も考えられ、レベルの高い選手で復帰に2~3週かかるのか、それとも6~8週かかるのを明確にしなければならなかったためMRI撮影を行い、左外閉鎖筋肉離れと確定診断した症例です。

.....

【投稿コメント : ドクター (某Jリーグチーム)】

サッカー選手には割りと多く見られます。個人的には2? 3週で、痛み次第ではプレー可能と考えています。

【投稿コメント : M's AT project Athletic Trainer】

数年前にGroin painの話聞いた時に、このような症例もあったという話を聞きました。内閉鎖筋・外閉鎖筋どちらの損傷かで復帰までのアスレチックリハビリテーションが変わることはありませんが、神経支配の違いから内閉鎖筋損傷と外閉鎖筋損傷で疼痛の訴え方に差が出るという文献も見た事があります。実際臨床ではいかがでしょうか。

【箕山クリニック：Doctor】

すべての症例で MRI を撮ってないので、内閉鎖筋か外閉鎖筋かの鑑別はすべて行えていませんが、内閉鎖筋は閉鎖神経に沿って大腿内側、外閉鎖筋は大腿後面のほうにも疼痛が出る印象があります。

【投稿コメント：ドクター】

ハムストリングの付着部断裂は、手術適応ですが、これも手術適応な症例があるのでしょうか？

【箕山クリニック：Doctor】

身体所見で疼痛が強く外旋の力を出せてないようであれば MRI で確認し、付着部断裂して筋が短縮しているようであれば、ハイレベルの選手なら手術適応も考えられると思います